

一般質問通告書

通告順番 8 番

通告者 岩下 啓史 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 地下水位の収支予測に基づく町づくり計画を策定すべきではないか	○くまもとサイエンスパーク推進ビジョンが3月に示されました。この中には、大津町での空港アクセス鉄道中間駅周辺の開発も含まれており、現在検討中となっています。これは、国の半導体・デジタル産業戦略の一部として位置付けられているため、産官学連携の事業として一体的に推し進められていくことかと思えます。 ○そこで、中間駅周辺の開発計画について開発予定地域と面積、商業施設、住宅開発など構想を示すべきではないか。 ○大津町でも今後新たな開発計画がいくつもありますが、地下水の将来予測もままならない中、開発をどんどん推し進めては地下水の収支バランスが崩れ、取り返しのつかないことになってしまっは大問題です。 ○まずは、地下水位の将来予測を20年先まで行うように町から県に求め、そのデータを元にした上で町として、企業誘致、開発などをしっかり規制していく姿勢が問われているかと思えます。 この点について、町長の見解を問います。	町 長
2 地下水を守るための施策の充実を	（1）地下水の枯渇について ○町の家庭用、雨水貯留浸透施設設置補助金の申請件数と補助額についてお尋ねします。 ○大津町でも熊本市を見習い、町の地下水保全条例を作り、雨水親等施設の設置を義務化し涵養を維持するべきではないでしょうか。 （2）PFASによる地下水の汚染について ○3月末に熊本北下水道放流口下流地点でJASMが使用しているPFBSが59ng/l（昨年4月の10倍近い値）、PFBAが15ng/l検出されました。 ○熊本県内いくつかの地点でのPFOS、PFOAの超過事例も起きており、今年の1月には宇城市で一時的にはありますが対象地域の水道水が利用できなくなる事態に陥りました。 ○PFASによる地下水の汚染はすでに始まっており、予防原則の立場から一刻も早く対応を行うことが求められているかと思えます。 ○PFASの危険性と対応について、町長の見解を問います。	町 長